

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601226		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームひらばり		
所在地	愛知県名古屋市天白区向が丘4丁目1001番地		
自己評価作成日	平成24年11月7日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成24年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所としては、地域・家族・利用者の4者での介護を目指している。地域とともにある施設だからこそ、地域との関わり合いを大切にしている。その為、地域行事の参加や施設を開放するなどの取り組みを行っている。
また家族に関しては、家族会の開催、行事の参加を積極的に行っている。家族と共に行う介護を実施し、家族にとっても、施設にとっても互いに良い関係を構築できるように図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あなたが主役」という理念のもと、1対1での会話を大切にその人のやりたいことを実現させることができるよう職員は努めている。職員・利用者家族がそれぞれフェイスシートを作成し利用者との会話のきっかけづくりなどに役立っている。家族会での交流もあることから家族の行事参加も多く、利用者が退所した後も家族がボランティアにきてくれたりするなどみんなで支えていこうという雰囲気がある。恒例となりつつある、月1回の朝市を始め、養蜂している蜂蜜の試食会や講演会・相談会のほかホームの一室を無料でキッズルームや英会話教室に開放するなど地域のために自分たちに何ができるのかという視点から意欲的に地域交流に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたが主役」が施設理念であり、1人ひとりが、生活場面や行事などで主役となれるよう、日々工夫をして実践しています。 また毎年施設方針をスタッフ皆で見直し、立てた目標の達成に向けて取り組みをしています。	研修の時にはまず理念が施設のどこに貼りだされているのかを探し、どういう意味かを自分なりに考えてまとめ、それを他の職員が確認することでお互いの理解度を再認識できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	消防訓練や夏祭り等、地域行事に参加するだけでなく毎月朝市を開催したり、施設行事に来て頂けるように地域の方々へ参加を促しています。 また施設の1室を子育てサークルに対して開放しています。	地域の方々が交流できる場として、地域の子育てサークルなどに施設の1室を開放したり、庭の一部を畑として活用し、地域の人達が来やすい環境作りを積極的に行なっている。また幅広い年代に来てもらえるように工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	HP等で相談窓口を設けており、相談等をメールで頂いています。 またNPO活動を通して認知症との関わりや認知症についての講演を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、民生委員やご家族様など地域の方に参加頂き、施設の活動報告を通して、ご意見を頂いています。 また、地域行事や催しものについて、地域の方の参加により情報提供頂いています。	年6回定期的に行われている。いきいき支援センター職員をはじめ地域の人々の参加があり様々な意見交換がなされている。買物難民の救済に、月1回開催している朝市が活用できるか検討し、扱う内容(商品)の再検討を実施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議へ天白区職員の方への参加の打診を毎回回り、いきいき支援センターの職員の方も会議で交流を深めその後の情報交換や行事での交流等が行えます。	区役所とはよく連絡を取りあっており、天白区の福祉フェアに参加したり、ホーム主催の講演会に行政の人も来てくれるなど交流も活発である。	
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待」について研修を行うことで、意識を高めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に「成年後見制度」を利用されてる方がいらっしやるため、研修やミーティングなどで勉強する機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、「契約書」「運営規定」「重要事項説明書」を2時間以上かけて全て読み合わせています。その上で、ご家族様からの疑問点を伺いながら、理解・納得された上での契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回以上行い、行事の内容をどうするか意見を聞く機会を設けたり、家族間交流を図っています。今年は秋の1泊旅行に、初めて参加される家族もいて、不安を払拭する機会となりました。	普段から利用者の家族と話す機会を持ち、要望を聞き出すようにしている。旅行に行く際も日帰りにするのか1泊にするのか話し合いを始め、家族の意見を聞いてから決めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティング、全体ミーティング、リーダーミーティング等社員からパートまで幅広く意見を取り入れる機会を設け、トップダウンではなく、意見を反映できるようにしています。また面談等スタッフと話す時間を設け、意見を聴く機会を持ち、反映させています。月に2回お茶会の実施もあります。	様々なミーティングが設けられていて色々な角度から意見が言えるようになってきている。職員も会計ミーティングに参加し予算の中で実現してみたいことや節約できることを話し合い、実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、目標管理面談を実施し、自分の目標を定めることで、モチベーションを高く持ち業務に臨んで頂けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修では、認知症実践者研修や管理者研修など、内部研修では初級管理者研修など、個人の能力に合わせた研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への施設見学会の実施や実習生の受け入れを行い、サービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用していただく前に見学して頂き、実際に利用を開始する際、なるべく安心して開始できるようにしています。また相談があった際には、困っている事や不安な事を伺い、サービス開始に結び付けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に「センター方式シート」の記入をご家族様に依頼しています。それを元にスタッフも受け入れやどう対応するか対策を練る事ができ、安心して入居して頂けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様との聞き取りの中で、本当に困っていることを聞きとりし、ご本人にとって1番を考えられるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を1人の「個」として理解し、介護してあげるではなく、共に生活するという視点で介護を行っています。できないからするのではなく、できるようにするためにはどうしたらいいかを考えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には積極的に参加して頂いています。1泊旅行では「乾杯の挨拶」など家族様にも役割を担って頂き、家族と共に行うことを大事にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	カンファレンスや家族様の話の中で聞き取れたご本人のなごみを介護記録③で日々の生活の中で活かしているようにしています。例えば、月に1回馴染みの床屋へ行き、ご家族と食事をして過ごす方には、ご家族への協力の呼びかけ、日程調整等電話連絡を行い、本人の日常の楽しみの機会を継続して支援しています。	利用者の昔の職場の人が訪ねてきても、話が出来た環境を作ったり、また年賀はがきを出したり、墓参りに行くなど、できるだけ本人の希望が叶うように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時、15時とお茶の時間を同じ机で皆と和気あいあいしながら、お茶を楽しんでいます。その際、会話が弾んで、おしゃべりしたり、歌を歌ったりする姿もよく見られています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方を施設行事に招き、グリーフケアを行っています。 また年賀状のやり取りも行い、切れない縁を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活習慣をなるべく変えないように、過ごして頂くよう配慮しています。 毎日朝刊をとりに行くことが日課の方は、一緒に同行したり、歌を歌うことが好きな方は、カラオケ教室へ参加できるようにしています。	職員と利用者との関わりから「観察メモ」を作成している。それを事務所に掲示して、情報の共有化をしている。また、入居前の情報収集に力を入れており、日頃の関わりの中から思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族からの情報収集、インタビュー資料やセンター方式を必ず作成し、これまでの暮らしを皆で共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎週フロアミーティングを開催し、入居者の変化や対応について話し合いをしています。週の目標に入居者様を視点に当てケアを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的実施し医師、鍼灸師、管理者、介護士が参加頂く事で、よりよい生活の為の会議を行っています。そこで家族様の悩みを聞いたり、今後の介護の方向性の確認を行っています。	具体的に馴染みの習慣などを目標に掲げ、実現できる所までプランに落とし込むようにしている。カンファレンスや家族からの意見を積極的に聞き取り、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録とは別に、独自に介護記録③を作成しています。ケアプランから導いているので、日々モニタリングを行いながら、ケアの実践に役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や体調不良時にすばやく対応して下さる提携医師の協力、通院も家族のご都合に合わせ柔軟に対応しています。馴染の床屋へ行かれる方に対しては、訪問理容ではなく、ご本人の意向に沿った対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買い出しへは地元のスーパーへ行き、スーパーの店員さんとも顔なじみとなっています。衣服などもご本人の馴染みに合わせて「しまむら」に購入しに出かけています。地域行事があれば、参加をし、地域に溶け込んだ施設を目指しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診に2週間に1度来られ、介護記録④を元に、入居者の体の変化を報告し、適切な指示を頂いています。また整形受診や他の病院受診なども行っています。	利用者に対し、2週間に1回往診してもらっている。24時間の協力体制が築かれており、気軽に医師に相談できる関係である。歯科、眼科の往診も実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の無い週に来所され、介護記録④を元に、入居者の体の変化を報告し、適切な指示を医師に伝えて頂いています。同じ看護婦さんが来て下さるので、入居者様との距離も近く、入居者様も安心しておられます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、症状が落ち着いたら面会に伺い、担当医やワーカーから現状の確認も合わせ、情報収集を行っています。それを元に今後の話し合いをなるべく早期に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスにて「事前指定書」を元に、どうするかをご家族様、医師、スタッフで、ご本人のためにどうしていくかを話し合っています。その際、ご本人がどう過ごしたいかを重点に置き、その人らしく過ごせるように取り組んでいます。	「事前指定書」を用意している。利用者の状況をみながら、それをもとに家族、医師、職員での話し合いの場を設けている。重度化させない取り組みや、重度化しても生活に変化を与えないように配慮している。職員の意識を高めるためにビデオによる指導も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング等で緊急時の対応について勉強会を実施し、普段から気をつけるように指導しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	何かあればすぐに駆け付けよう、近隣にスタッフが住んでいます。また施設のスタッフが地元の消防団に入っている為、何かあればすぐに協力をいただけるようになっていきます。炊き出しの訓練も行いました。	耐震補強工事を行い、地震に備えている。非常ベル、三角巾の使い方、AEDの操作方法などの訓練を行っている。年2回の避難訓練を実施している。地元消防団に来てもらい、パート職員、利用者も参加して訓練する事で防災意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の入居者様を尊敬できる存在として、呼び方や言葉かけには、その方に合わせるように指導しています。 トイレ介助の際は、カーテンを閉め、プライバシーが保てるように徹底しています。	職員が使用するトイレに利用者に接する時の心構え、プライバシーを保護する事の重要性を掲示しており、職員の意識が常に高く保てるように工夫されている。利用者が自室の鍵を自由に開閉できるように、鍵を持つことを許可したり、個人の尊重に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事の際は「何がしたいか？」などアンケートをとり、なるべくご本人の意向に沿うようにしています。 買い物も「～が買いたい」「～へ行きたい」とあれば、意向に沿った支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も特に決まっていない為、朝寝坊してもゆっくりとご飯が食べられるようにしています。 また朝は、パン食・ご飯食が選べるようにしてあり、ご本人のその日の気分に合わせて食事ができるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の化粧水の使用や、訪問美容によるカラーなど、いつまでの女性らしい身なりが整えられるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望に沿ったメニューを立てて、入居者の好みを献立にいかしています。 また一緒に作ることで食事の楽しみを作っています。	利用者の食事量を観察して、その後のメニューの改善に役立っている。畑で採れた野菜を使ったり、季節感が感じられるような献立にしている。味見、野菜を切る、食器の片付けなど利用者それぞれの役割を職員がサポートしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に水分量、食事が記載できるようにしています。なかなか水分が摂取できない際は、水分形態を変える等工夫して摂取して頂いています。また食事量が少ない際は、おやつなどの間食にてバランスを取っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。 また定期的に訪問歯科の先生が見え、口腔のチェックをして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりにあわせたトイレ誘導を実施しています。 また声かけに関しても、1人一人に合わせた内容で実施しています。	排泄チェック表で、本人の動きを観察して排泄につながるサインを逃さないよう職員全員に周知されている。排便を促すようにヨーグルトを食事で提供したり、食事面での排泄の自立支援にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトなど腸に良い食材を取り入れたり、なるべく水分や食物繊維の多いものを取って頂いたり、運動して自然な排便が行えるように工夫しています。 また便秘にすぐに対応できるよう、医師とも連携を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外毎日朝から、本人様の好きなタイミングで入浴できるようにしています。例えば就寝前の入浴が馴染んであった方には、就寝前に入浴をして頂いています。またスタッフが1対1にて入浴をすることで、ご本人の話をじっくりと聞く時間になっています。	一番風呂、夜間入浴など利用者一人一人の要望に柔軟に対応している。重度化した時の入浴に対応するため、機械浴も設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前に聞き取りした、ご本人の生活リズムに合わせ、就寝して頂いています。 できるだけご本人のなじみの生活に沿うようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対しては、常に危機意識を持つように、指導しています。服薬時にはダブルチェックや口腔内の確認を実施。服薬変更時には、薬剤師にも確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の際に、フェイスシートに記入して頂き、ご本人の好きな事や役割をできるだけ、施設内でも生かしていけるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には買い物や散歩に出かけます。服を買いになじみの「しまむら」へ出かけた後、近隣の喫茶店「スワン」や「コメダ」へ出かけています。	一日おきに食材の買い物に出かけている。夏にはかき氷を食べに出かけたり、ホーム敷地内の地藏さんに参りに行くなど、積極的にホームから出る機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理をすることが出来る方は、管理をして頂き、難しい方は事務所で管理をし、必要時に合わせてお小遣いを出すことが出来ます。スタッフが、1人ひとりの管理能力に合わせて金額等の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	曾孫様との手紙のやり取りを楽しみにされていていらっしゃる方がいるため、一緒にポストに手紙を出しに行ったりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、玄関先やDRを飾り、季節感を感じて頂いています。 建物内は畳や木材など馴染みのものを使い、キッチンからは、DRでの様子が見られるようにしています。	季節感を出すような飾りつけに心がけている。行事ポスターを利用者と職員で作ったり、掲示物で視覚的な働きかけを工夫している。写真の張り替えなど、利用者にも参加してもらいながら居心地の良い共用空間に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを囲む形での居室になるため、皆で団欒をする時はリビングで各々過ごして頂いています。テレビを見られたり、編み物をされたりとみなさんが自由に過ごして頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、使い慣れた馴染みのものや好みものを持ってきていただくようご家族様をお願いをしています。タンスや仏壇を置かれている方や、家族との写真を部屋に飾られる方などいらっしゃいます。	各居室の入り口横には、馴染みの物、作品を飾る棚があり、利用者それぞれの個性を表現するディスプレイとなっている。仏壇、馴染みの家具等を持ちこんで居心地のいい生活空間となるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに案内板を設置したり。浴室内の手すりを赤色の物を採用したり、ご本人が「わかる」ようにと工夫したものです。一人ひとりの理解力に合わせて、様々な工夫をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601226		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームひらばり		
所在地	愛知県名古屋市中区向が丘4丁目1001番地		
自己評価作成日	平成24年11月7日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成24年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所としては、地域・家族・利用者の4者での介護を目指している。地域とともにある施設だからこそ、地域との関わり合いを大切にしている。その為、地域行事の参加や施設を開放するなどの取り組みを行っている。</p> <p>また家族に関しては、家族会の開催、行事の参加を積極的に行っている。家族と共に介護を実施し、家族にとっても、施設にとっても互いに良い関係を構築できるように図っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「あなたが主役」という理念のもと、1対1での会話を大切にしてその人のやりたいことを実現させることができるよう職員は努めている。職員・利用者家族がそれぞれフェイスシートを作成し利用者との会話のきっかけづくりなどに役立っている。家族会での交流もあることから家族の行事参加も多く、利用者が退所した後も家族がボランティアに来てくれたりするなどみんなを支えていこうという雰囲気がある。恒例となりつつある、月1回の朝市を始め、養蜂している蜂蜜の試食会や講演会・相談会のほかホームの一室を無料でキッズルームや英会話教室に開放するなど地域のために自分たちに何ができるのかという視点から意欲的に地域交流に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたが主役」が施設理念であり、1人ひとりが、生活場面や行事などで主役となれるよう、日々工夫をして実践しています。 また毎年施設方針をスタッフ皆で見直し、立てた目標の達成に向けて取り組みをしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	消防訓練や夏祭り等、地域行事に参加するだけでなく毎月朝市を開催したり、施設行事に来て頂けるように地域の方々へ参加を促しています。 また施設の1室を子育てサークルに対して開放しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	HP等で相談窓口を設けており、相談等をメールで頂いています。 またNPO活動を通して認知症との関わりや認知症についての講演を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、民生委員やご家族様など地域の方に参加頂き、施設の活動報告を通して、ご意見を頂いています。 また、地域行事や催しものについて、地域の方の参加により情報提供頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議へ天白区職員の方への参加の打診を毎回回り、いきいき支援センターの職員の方も会議で交流を深めその後の情報交換や行事での交流等が行えます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束」について研修と勉強会を行っています。 直接身体の拘束だけではなく、鍵をかけない事やバリデーションについても意識を高めるため、トイレに掲示し、普段から高齢者への関わり方に注意できるように対応しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待」について研修を行うことで、意識を高めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に「成年後見制度」を利用されてる方がいらっしやるため、研修やミーティングなどで勉強する機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、「契約書」「運営規定」「重要事項説明書」を2時間以上かけて全て読み合わせています。その上で、ご家族様からの疑問点を伺いながら、理解・納得された上での契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回以上行い、行事の内容をどうするか意見を聞く機会を設けたり、家族間交流を図っています。今年は秋の1泊旅行に、初めて参加される家族もいて、不安を払拭する機会となりました。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティング、全体ミーティング、リーダーミーティング等社員からパートまで幅広く意見を取り入れる機会を設け、トップダウンではなく、意見を反映できるようにしています。 また面談等スタッフと話す時間を設け、意見を聴く機会を持ち、反映させています。月に2回お茶会の実施もあります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、目標管理面談を実施し、自分の目標を定めることで、モチベーションを高く持ち業務に臨んで頂けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修では、認知症実践者研修や管理者研修など、内部研修では初級管理者研修など、個人の能力に合わせた研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への施設見学会の実施や実習生の受け入れを行い、サービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用していただく前に見学して頂き、実際に利用を開始する際、なるべく安心して開始できるようにしています。また相談があった際には、困っている事や不安な事を伺い、サービス開始に結び付けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に「センター方式シート」の記入をご家族様に依頼しています。それを元にスタッフも受け入れやどう対応するか対策を練る事ができ、安心して入居して頂けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様との聞き取りの中で、本当に困っていることを聞きとりし、ご本人にとって1番を考えられるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を1人の「個」として理解し、介護してあげるではなく、共に生活するという視点で介護を行っています。できないからするのではなく、できるようにするためにはどうしたらいいかを考えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には積極的に参加して頂いています。1泊旅行では「乾杯の挨拶」など家族様にも役割を担って頂き、家族と共に行うことを大事にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	カンファレンスや家族様の話の中で聞き取れたご本人のなごみを介護記録③で日々の生活の中で活かしているようにしています。例えば、月に1回馴染みの床屋へ行き、ご家族と食事をして過ごす方には、ご家族への協力の呼びかけ、日程調整等電話連絡を行い、本人の日常の楽しみの機会を継続して支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時、15時とお茶の時間を同じ机で皆と和気あいあいしながら、お茶を楽しんでいます。その際、会話が弾んで、おしゃべりしたり、歌を歌ったりする姿もよく見られています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方を施設行事に招き、グリーフケアを行っています。 また年賀状のやり取りも行い、切れない縁を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活習慣をなるべく変えないように、過ごして頂くよう配慮しています。 毎日朝刊をとりに行くことが日課の方は、一緒に同行したり、歌を歌うことが好きな方は、カラオケ教室へ参加できるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族からの情報収集、インタビュー資料やセンター方式を必ず作成し、これまでの暮らしを皆で共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎週フロアミーティングを開催し、入居者の変化や対応について話し合いをしています。週の目標に入居者様を視点に当てケアを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的実施し医師、鍼灸師、管理者、介護士が参加頂く事で、よりよい生活の為の会議を行っています。そこで家族様の悩みを聞いたり、今後の介護の方向性の確認を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録とは別に、独自に介護記録③を作成しています。ケアプランから導いているので、日々モニタリングを行いながら、ケアの実践に役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や体調不良時にすばやく対応して下さる提携医師の協力、通院も家族のご都合に合わせて柔軟に対応しています。馴染の床屋へ行かれる方に対しては、訪問理容ではなく、ご本人の意向に沿った対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買い出しへは地元のスーパーへ行き、スーパーの店員さんとも顔なじみとなっています。衣服などもご本人の馴染みに合わせて「しまむら」に購入しに出かけています。地域行事があれば、参加をし、地域に溶け込んだ施設を目指しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診に2週間に1度来られ、介護記録④を元に、入居者の体の変化を報告し、適切な指示を頂いています。また整形受診や他の病院受診なども行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の無い週に来所され、介護記録④を元に、入居者の体の変化を報告し、適切な指示を医師に伝えて頂いています。同じ看護婦さんが来て下さるので、入居者様との距離も近く、入居者様も安心しておられます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、症状が落ち着いたら面会に伺い、担当医やワーカーから現状の確認も合わせ、情報収集を行っています。それを元に今後の話し合いをなるべく早期に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスにて「事前指定書」を元に、どうするかをご家族様、医師、スタッフで、ご本人のためにどうしていくかを話し合っています。その際、ご本人がどう過ごしたいかを重点に置き、その人らしく過ごせるように取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング等で緊急時の対応について勉強会を実施し、普段から気をつけるように指導しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	何かあればすぐに駆け付けるよう、近隣にスタッフが住んでいます。また施設のスタッフが地元の消防団に入っている為、何かあればすぐに協力をいただけるようになっています。炊き出しの訓練も行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の入居者様を尊敬できる存在として、呼び方や言葉かけには、その方に合わせるように指導しています。 トイレ介助の際は、カーテンを閉め、プライバシーが保てるように徹底しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事の際は「何がしたいか？」などアンケートをとり、なるべくご本人の意向に沿うようにしています。 買い物も「～が買いたい」「～へ行きたい」とあれば、意向に沿った支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も特に決まっていない為、朝寝坊してもゆっくりとご飯が食べられるようにしています。 また朝は、パン食・ご飯食が選べるようにしてあり、ご本人のその日の気分に合わせて食事ができるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の化粧水の使用や、訪問美容によるカラーなど、いつまでの女性らしい身なりが整えられるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2Fフロアでは、メニューを書き出しする役割を持つ人がいたり、洗い終わった食器のすすぎや、食器ふき等入居者様の特性に合わせて役割をもって頂き、食事を楽しんで頂けるよう支援をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に水分量、食事量が記載できるようにしています。なかなか水分が摂取できない際は、水分形態を変える等工夫して摂取して頂いています。また食事量が少ない際は、おやつなどの間食にてバランスを取っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。 また定期的に訪問歯科の先生が見え、口腔のチェックをして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりにあわせたトイレ誘導を実施しています。 また声かけに関しても、1人一人に合わせた内容で実施しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	2階フロアでは毎日ヨーグルトを食材に取り入れ、自然な排便が行えるように工夫しています。また便秘にすぐに対応できるよう、医師とも連携を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外毎日朝から、本人様の好きなタイミングで入浴できるようにしています。例えば就寝前の入浴が馴染んであった方には、就寝前に入浴をさせて頂いています。またスタッフが1対1にて入浴をすることで、ご本人の話をじっくりと聞く時間になっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前に聞き取りした、ご本人の生活リズムに合わせ、就寝して頂いています。できるだけご本人のなじみの生活に沿うようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対しては、常に危機意識を持つように、指導しています。服薬時にはダブルチェックや口腔内の確認を実施。服薬変更時には、薬剤師にも確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の際に、フェイスシートに記入して頂き、ご本人の好きな事や役割をできるだけ、施設内でも生かしていけるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には買い物や散歩に出かけます。服を買いになじみの「しまむら」へ出かけた後、近隣の喫茶店「スワン」や「コメダ」へ出かけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理をすることが出来る方は、管理をして頂き、難しい方は事務所で管理をし、必要時に合わせてお小遣いを出すことが出来ます。スタッフが、1人ひとりの管理能力に合わせて金額等の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	曾孫様との手紙のやり取りを楽しみにされていていらっしゃる方がいるため、一緒にポストに手紙を出しに行ったりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、玄関先やDRを飾り、季節感を感じて頂いています。 建物内は畳や木材など馴染みのものを使い、キッチンからは、DRでの様子が見られるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを囲む形での居室になるため、皆で団欒をする時はリビングで各々過ごして頂いています。テレビを見られたり、編み物をされたりとみなさんが自由に過ごして頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、使い慣れた馴染のものや好みのもを持ってきていただくようご家族様にお願いをしています。タンスや仏壇を置かれている方や、家族との写真を部屋に飾られる方などいらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに案内板を設置したり。浴室内の手すりを赤色の物を採用したり、ご本人が「わかる」ようにと工夫したものです。1人ひとりの理解力に合わせて、様々な工夫をしています。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371601226
事業所名	グループホームひらばり

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 近所の夏祭りに行ったり、盆踊りの抽選会に参加したりしている。中学校の職業体験の受け入れも行っている。地域行事の情報は町内会の回覧版のほか民生委員や区役所職員からも得ている。職員に消防団員がいるので団員達との交流もあり、避難訓練や炊き出しの企画など協力してもらっている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 毎回、区役所職員・いきいき支援センター職員、民生委員・消防団員などの地域住民、利用者家族などが出席して行われる会議では地域の方々が専門職の人と直接話ができるため、相互理解のよい機会となっている。参加者からの意見や要望のほか毎回取り組むべき課題が挙げられ解決に向けて話し合われている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 色々な世代へのアピールにもなることから市の介護ネットのホームページのバナー広告を引き続き出している。「地域たまり場福祉促進事業の一環」として区の福祉協議会の後援を得て相談会を開くなど市や区との連携の場を広げている。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 毎月発行されるほほえみ便りは利用者の普段の様子がよくわかるように書かれている。食事の盛りつけや作業をしているところなどを撮った写真も添えられている。家族会は年3回開催され利用者の家族同士の交流もある。家族の意見で口腔ケアの後、水の流れを良くするためにすぐに洗面所の掃除をしたほうがよいというアドバイスがありすぐに実行、習慣化させた。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。